



平成27年度 JICA コミュニティ防災(B)研修 - JICA Community Based Disaster Risk Management (B) -

研修期間：平成27年10月13日～11月20日（6週間）

研修場所：神戸市/岩手県/宮城県/東京都/高知県

研修内容：参加研修員の自国のコミュニティにおける、自然災害に対する防災活動推進方法の習得に関する講義/視察

参加研修員：20名（アフガニスタン2、アンティグア・バーブーダ1、ブルンジ1、コロンビア2、ガーナ1、グアテマラ2、ホンジュラス1、モーリシャス1、ミャンマー4、ニカラグア1、ペルー1、スーダン1、タイ2）



神戸市独自の取組みである「防災福祉コミュニティ」の理念・活動が、世界に広がっています。

（神戸市役所にて久元喜造市長を表敬訪問）

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受け、「コミュニティ防災(B)研修」を実施しました。この研修は毎年、年2回実施し、総勢約40名の研修員を日本に招き実施しています。

阪神淡路大震災では、多くの家屋が倒壊し、家具や倒壊建物の下敷きになってしまった人、火災に遭い逃げられなかった人が尊い命を失いました。しかし一方で、がれきの下敷きになりながらも脱出もしくは近隣住民など市民同士の助け合いによって、九死に一生を得ています。このことから、住民ひとりひとりが「自分たちの命を自分たちで守る」＝「自助・共助」の大切さに気付かされたという教訓は、大地震を経て我々

が得た財産となっています。

この教訓を生かして、神戸市では、「防災福祉コミュニティ*1（以下、「防コミ）」と呼ばれる自主防災組織を立ち上げました。今や神戸市の全域で、この「防コミ」による防災活動が行われています。

今回研修に参加したのは13か国から来日した研修員たちで、各国で頻発する災害の種類は、地震、津波や洪水のほかに、火山や干ばつなど、それぞれの国で異なっています。しかし、いずれの国も自然災害による甚大な被害が予想され、実際に本研修期間中も研修員が参加しているアフガニスタンで大きな地震が発生しました。

それにも関わらず、多くの国では、財政上の問題などにより、「防災」への取組みが十分とは言

*1 防災福祉コミュニティ（通称「防コミ」）：阪神・淡路大震災の教訓をもとに生まれた神戸市独自の防災の取組みで、小学校区ごとに結成された住民組織。住民が主体となって、安全で（防災）安心して（福祉）暮らせるまちづくりを目指し、防災活動や福祉活動に取り組んでいる。

えません。起こってしまった災害に対し、外国からの援助などの助けを借りつつ復旧に取り組むものの、将来再び起こりうる災害への備えには手が回らないのが現状です。そして、せっかく少しずつ復旧してきた街が、再び同じような災害に襲われ、大きな被害を出す。そうした負のスパイラルから抜け出すためにできること、それが、「自助・共助」の精神に基づいた「地域の防災活動」だと、私たちは考えます。

そこで、本研修では、「防コミ」の理念や設立の背景、活動内容を学び、住民主体の地域の防災活動に参加することで、それぞれの母国においても、地域コミュニティに根差した防災活動の推進に役立ててもらおうと、6週間のプログラムを実施しました。



～研修を振り返って～

防コミ訓練では、地域の方々から言語の壁を越えたコミュニケーションで、暖かく迎え入れていただきました。



防コミメンバーの方にチェーンソーの使い方を教わり、実践させていただきました。
(10/25 東山小学校にて)



子どもたちと一緒に大玉ころがしに参加し、研修員は全員大盛り上がりでした。
(11/1 和田岬小学校防災スポーツ大会にて)

本研修の前半は神戸市内で阪神淡路大震災の教訓を共有し、後半は東日本大震災の被災・復興状況、そして南海トラフ巨大地震への備えを学ぶために東北地方・四国地方の訪問、アクションプランの策定を行いました。

まずは、神戸市内で、「防コミ」とは何か、「防コミ」が具体的にどのような活動をしているのか、行政は「防コミ」に対しどういった支援をしているのか、という点に重点を置いて、講義・視察を実施しました。

神戸市の防コミは、防災面に関しては消防署が、福祉面に関しては区役所がサポートするという2つの側面で行政からの支援体制が整えられています。こうした仕組みになっているのは、防災と福祉が地域コミュニケーションという媒体で、一体をなし、平時の福祉、災害時の防災という観点から地域コミュニティの強化を図ろうとしたためです。

本研修では神戸市消防局から全面的にご協力を頂き、防コミメンバーの方から平常時の活動内容を伺い、防コミが主催する防災訓練に参加しました。

小学校で実施された防災訓練では、児童のみなさんと一緒にチェーンソーの操作方法を学んだり、地域の方々に交じって防災クイズに参加したりして、一住民である防コミメンバーの方々が、防災の先生となって訓練を実施・運営する姿を目にしました。そして何よりも、子供たちが楽しんで防災訓練に取り組む姿とともに体感したことで、「防災訓練」＝「退屈」＝「身に付かない」という構図が定着し、防災訓練の活用に関心をもち、研修員にとって大変刺激的な経験となったようです。

また、防コミ以外にも、阪神淡路大震災を契機に設立された舞子高校環境防災科の授業で研修員が考えた防災シナリオのデモンストレーションを行いました。最後には、デモンストレーションの中で紹介された傷病者の避難を助ける方法を生徒たちとともに実践しました。

そして、一同は東日本大震災の被災地へ。震災から4年半が経過する、岩手県・宮城県の被災エリアを訪れました。研修員は皆、来日前から、東日本大震災による死者・行方不明者の数や津波の高さ・地震の震度を知っています。ところが、実際に津波が襲った被災地に立ってみると、海岸線からの高さや距離が、想像をはるかに超えるものだったことを実感し、その強大な威力に、その場にいた全員が言葉を失いました。

想像を絶するほどの巨大災害時には、建造物の力だけでは生命を守ることはできません。行政機関の建物すら津波の襲来に遭い、自治体の行政機能のほとんど全てを失ったという地域では、一からの復興まちづくりや地域コミュニティの再興が余儀なくされているのです。いざという時には、迅速に必要な情報を得られる環境と、災害から自分や周囲の人々を守るための意識と行動が不可欠で、それらすべてが揃う事で、被害を最小限に止めることができる。東日本大震災が私たちに残した教訓は、世界各国から被災地を訪れた研修員の心にも深く刻まれました。

最後は、南海トラフ巨大地震による大津波の襲来が想定されている高知県を訪れました。同県では、これまで何度も大きな地震や津波に襲われ、被害を受けてきた過去の記録とともに、2011年に発生した東日本大震災の教訓を生かした取り組みが行われています。

特に、黒潮町は国の中央防災会議による想定で、最大震度7の場合、最高の津波高が34.4mと推計された町です。お話を伺った同町の防災担当者によると、当初は、あまりに過酷な想定に、住民の間で諦めの雰囲気広がっているのを感じたと言います。しかし、そういった状況にも屈さず、町役場の職員全員が一丸となって「避難放棄者ゼロ、そして犠牲者ゼロ」に向けて、住民の皆さん



避難所となっていた学校にも津波が襲来し、火災が発生しました。現場での適切な指示が多く、命を救いました。
(11/8 宮城県石巻市旧門脇小学校にて)



平らな土地が広がるエリアでは、高所への住民の迅速な避難を確保するため、津波避難センターを建設しました。平時には、地域の方々の憩いの場として活用されています。(11/12 高知県高知市種崎地区津波避難センターにて)

とともに歩みを進めているのです。同町では、全員が必ず避難行動を起こすための取組みとして、「避難カルテ」作成に着手しました。「避難カルテ」とは、世帯ごとに戸別の聞き取りや緊急時の対応に関する相談を行い、災害発生の際、避難のための援護が必要な家族がいるか、どこに避難所に何分で到着できるか、どのルートを通るのが最も安全と思われるかなどを事前に考えておくための取組みです。このカルテの作成によって、現状の地域の課題も明らかとなり、これを改善するためのインフラ等の環境整備や地域コミュニティと行政の協力関係の構築も進められています。

研修員のアクションプランには、地域のコミュニティラジオを活用して火山災害の危険情報発信に生かそうというアイデアや、「イザ!カエルキャラバン!」などの特に子どもたちが楽しめるイベントを活用した防災教育プログラムを実施する計画などが含まれ、神戸で学んだことをもとにして様々な活動が各国で実施されることが期待されます。

「防災」への意識を高め、自然災害から一人一人の大切な財産と生命を守るための活動には、地域住民が何度も対話を重ね、少しずつ関係を構築していくほかありません。日本を襲った巨大災害からの教訓が、本研修の研修員を通じて世界に広がり、彼らの活動が5年後、10年後、それ以降も生き続けることで、多くの命を救ってくれるものと信じています。

研修担当：曾輪 沙耶加

委託機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導機関：神戸市消防局

講義/視察先：(順不同・敬称略)

神戸市消防局/人と防災未来センター/公益財団法人神戸都市問題研究所/神戸市教育委員会/
若鷹市民消火隊/ひだまり公園市民消火隊/北淡震災記念公園/魚崎町防災福祉コミュニティ/神戸市立夢野の丘小学校/東山地区防災福祉コミュニティ/仁川百合野地すべり資料館/
SEEDS Asia/NPO 法人プラス・アーツ/兵庫県立舞子高等学校/防災インターナショナル/
神戸市立和田岬小学校/和田岬校区防災福祉コミュニティ/特定非営利活動法人ムラのミライ/
特定非営利活動法人エフエムわいわい/宮古市/社団法人宮古観光協会/陸前高田市/
社団法人南三陸町観光協会/ひょうご震災記念21世紀研究機構/高知県/高知市/黒潮町/
ガジャマダ大学(インドネシア)/神戸学院大学/多文化と共生社会を育むワークショップ